

短 報

551.794:564(521.11)

下北半島，田名部低地帯の沖積層から産出した貝化石

坂 本 亨*

Molluscan Fossils from Alluvial Deposits near Tanabu, Shimokita Peninsula, Northeast Japan

Toru SAKAMOTO

青森県下北半島の田名部低地帯には、田名部川ぞいにきわめて低湿な沖積平野が発達している。この沖積平野の地下に多数の貝化石を産出することは、今までにも松井・坂口(1956)・畑中(1959)などによって報告されてきた。しかし、これらの報告では、貝化石の種類や産状について、あまりふれられていなかった。筆者は、1975年11月この地域をおとずれた際、むつ市田名部の北東方で、田名部川の改修工事によって掘り上げられた土塊にまじって、おびただしい貝化石が散乱しているのを見いだした。ここに、その工事現場の地表で採集した貝化石について簡単に報告する。筆者がおとずれた際には、改修工事はこの部分ではすでに終わっており、貝化石の産出を直接露頭でたしかめることはできなかった。そのため、報告としては、はなはだ不十分なものとならざるを得なかったが、下北半島—むつ湾地域の第四紀後期の地史を明らかにするための一資料ともなれば幸である。

岸より約5kmはなれている。

産出状況: 化石は、田名部川改修工事による新河道の兩岸約300mの範囲に、工事のさい掘り上げた土塊とともに、おびただしく散乱している。直接の露頭は観察できなかったが、この場所で掘り出されたものであることは、ほぼ確実である。この場所では、海拔約3mの地表から約1.5m下までは大部分が泥炭層であり、その下位には植物破片の多い灰褐色砂質シルト層がわずかに見られる。それより下位は水面下に没するため不明であるが、化石は地下数m以内のところから掘り出されたものであろう。

産出化石: 化石のなかではマガキがもっとも多く見られ、全域にわたって散乱している。この中には、合弁のものが密集した塊りをなしているものもあり、カキ礁を構成していたものと思われる。ウネナシトマヤガイなどがこれに伴う。カキ殻の産出は、田名部南東方の金曲泥炭地でも地下2mくらいのところに広く知られており(松井・坂口, 1956)、当時、田名部川沿岸の低地が全体として一つの潟湖を形成していたものと思われる。また、サルボウ・ウラカガミ・ヒメシラトリ・ホソウミナなどの内湾性の貝も、全域にわたって多数見られる。これらの二枚貝では合弁のものが多く、保存は良い。この他には、タマキガイ・キサゴ・ツメタガイのような外洋性のものも見られるが、個体数は少ない。貝以外ではフジツボの殻片1個が採集された。

貝化石群の特色: ここで見られる貝化石は、上記のように、外洋性・内湾性・潟湖性の群集が混在しているのが特色である。これは産出状況など考えあわせると、外洋→内湾→潟湖といった時代的な古地理環境の変化を反映したものと思われる。それぞれの群集が、この地点で、上下関係をもって沖積層中に含まれているものと予



第1図 位置図

産出地点: むつ市土手内の北方の田名部川河岸。現海

* 地 質 部

第 1 表 田名部付近の沖積層の貝化石

<i>Acmaea pallida</i> (GOULD)	ユキノカサ
<i>Chlorostoma rugatum</i> GOULD	シワクボガイ
<i>Umbonium (Suchium) costatum</i> (KIENER)	キサゴ
<i>Cerithideopsis (Cerithideopsilla) djadjariensis</i> (MARTEN)	カワアイ
<i>Batillaria cumingii</i> (CROSSE)	ホソウミニナ*
<i>Neverita (Glossaulax) didyma</i> (RÖDING)	ツメタガイ
<i>Niotha livescens</i> (PHILIPPI)	ムシロガイ
<i>Hinia festiva</i> (POWYS)	アラムシロ
<i>Trigonaphera bocageana</i> (CROSSE et DEBEAUX)	オリイレボラ
<i>Ringicula (Ringiculina) dorialis</i> GOULD	マメウラシマ
<i>Dentalium (Paradentalium) octangulatum hexagonum</i> GOULD	ムツカドガイ
<i>Glycymeris vestita</i> (DUNKER)	タマキガイ
<i>Porterius dalli obliquatus</i> (YOKOYAMA)	シコロエガイ
<i>Anadara (Scapharca) subcrenata</i> LISCHKE	サルボウ*
<i>Septifer (Mytilisepta) keenae</i> NOMURA	ヒメイガイ
<i>Crassostrea gigas</i> (THUNBERG)	マガキ*
<i>Trapezium japonicum</i> PILSBRY	ウネナシトマヤガイ*
<i>Dosinia (Dosinella) penicillata</i> (REEVE)	ウラカガミ*
<i>Protothaca euglypta</i> (SOWERBY)	ヌノメアサリ
<i>Tapes (Ruditapes) japonicus</i> (DESHAYES)	アサリ
<i>Nuttalia olivacea</i> (JAY)	イソシジミ
<i>Macoma incongrua</i> (v. MARTENS)	ヒメシラトリ*
<i>Balanus</i> sp.	フジツボ

* は多産するもの

想される。

一方、これらの貝化石は、ほとんどが現在のむつ湾に生息する種類 (野村・畑井, 1932; YAMAMOTO & HABA

1958-62) であり、海水温が現在とくらべてとくに差があったとはいえない。しいていえば、外洋性の群集が、内湾性の群集に比べて、いく分温かい状況を示すという程度である。ただ、この貝化石の中では、房総—中国大陸に分布するとされている (波部・小菅, 1967) オリイレボラが産出したことが注目される。

はじめに述べたように、今回は貝化石の産状を確認することはできなかった。しかし、田名部川の改修工事は、今後さらに上流 (東方) へ向かって進められるものとみられる。今後、こうした機会に、田名部低地帯の貝化石群がさらに詳しく検討されることを期待する。

擱筆にあたって、貝化石について懇切に教えて頂いた地質調査所大山桂博士に深甚の謝意を表する。

(1976年1月13日稿)

引用文献

- 波部忠重・小菅貞男 (1967) 標準原色図鑑全集 3, 貝. 保育社, 東京.
- 畑中 盛 (1959) 沖積層について. 青森ローム研究連絡紙, no. 1, p. 5.
- 松井 健・坂口 豊 (1956) 田名部低地帯の泥炭土の発達史, 断面形態および二・三の物理的性質. 資源研彙報, no. 40, p. 41-60.
- 野村七平・畑井小虎 (1932) 陸奥湾有殻軟体動物概報. 齊藤報恩会博物館時報, 特輯号. p. 2-13.
- YAMAMOTO, G. and HABA, T. (1958, 1959, 1962) Fauna of shell-bearing mollusks in Mutsu Bay. *Bull. Marine Biol. Sta. Asamushi, Tohoku Univ.*, vol. IX, no. 1, p. 1-20; vol. IX, no. 3, p. 85-122; vol. XI, no. 1, p. 1-20.

(受付: 1976年1月22日; 受理: 1976年3月29日)